

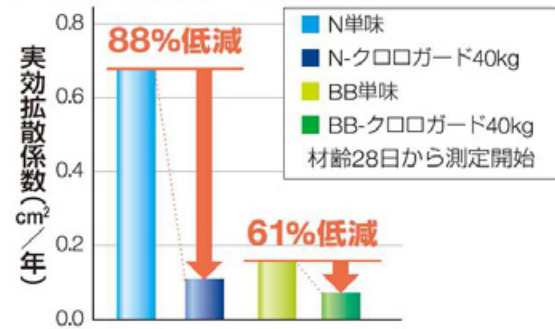
性能

注) 建設技術審査証明では、「塩化物イオン浸透抵抗性」について審査・証明されました。

塩害の進行を抑制

クロロガードの使用量が多いほど実効拡散係数を小さくでき、塩化物イオン浸透抵抗性を高めることができます。

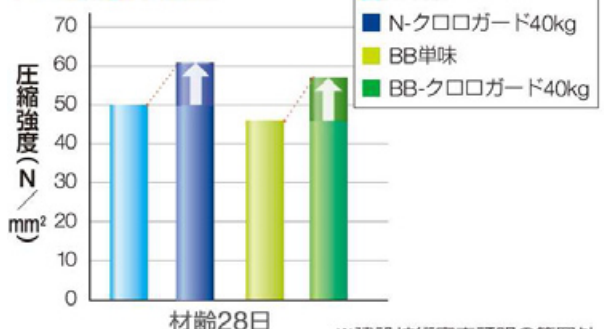
▶塩化物イオン実効拡散係数



高い圧縮強度を発現

クロロガードを使用したコンクリートの圧縮強度は、使用しない場合と比べて同等以上となります。

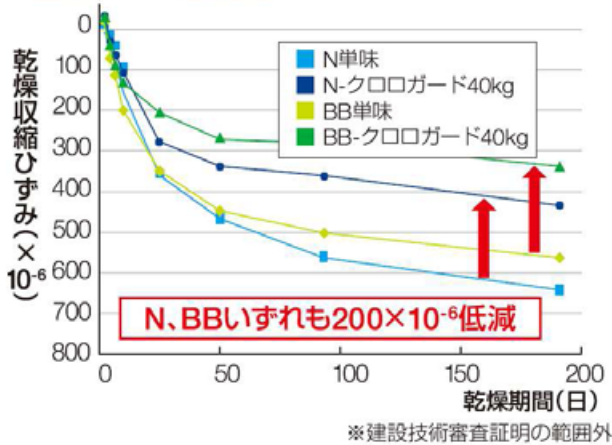
▶圧縮強度試験結果



乾燥収縮が小さく、ひび割れを低減

クロロガードを40kg/m³使用したコンクリートの乾燥収縮ひずみは、使用しない場合と比べて200×10⁻⁶小さくなり、ひび割れ抑制に効果があります。

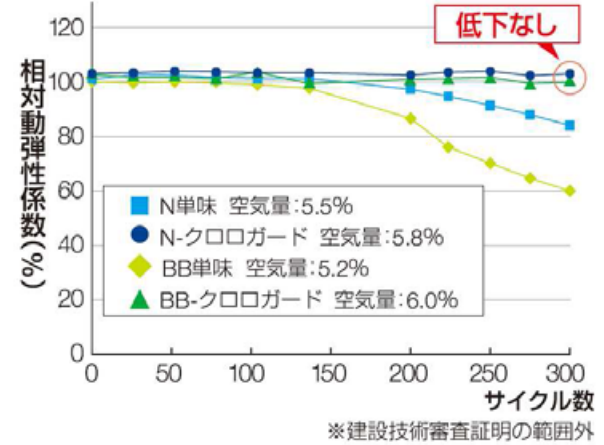
▶乾燥収縮ひずみの経時変化 (材齢1日から測定開始)



高い耐凍害性により劣化を抑制

クロロガードを使用したコンクリートは、空気量を適切に保つことにより、クロロガードを使用しない場合に比べて耐凍害性に優れます。

▶相対動弾性係数の経時変化 (材齢14日から測定開始)

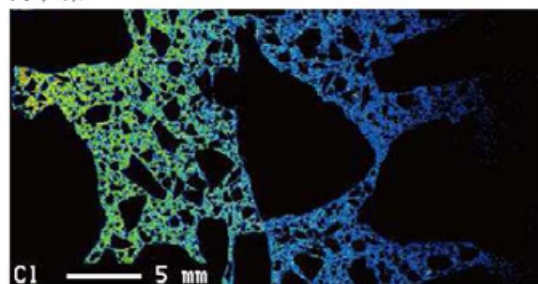


塩化物イオン濃度の低下で鋼材の劣化を予防

クロロガードは塩化物イオンの浸透を大幅に低減することにより、鋼材の腐食を遅らせてコンクリート構造物の長寿命化に貢献します。

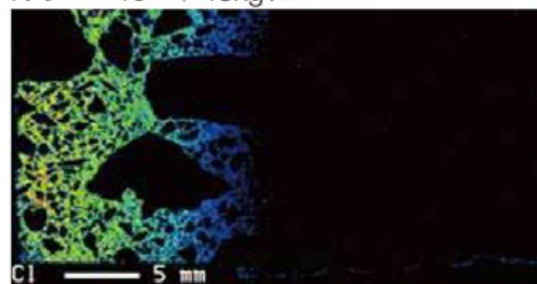
▶EPMA分析による塩化物イオン濃度分布

N単味



Cl 5 mm
↑ コンクリート表面

N-クロロガード40kg / m³



Cl 5 mm
↑ コンクリート表面 ※10%NaCl溶液 2.5年浸漬

